



## ●「かごんまの色®」をインテリアに

「かごんまの色®」は、鹿児島大学 環境色彩学研究会の研究成果で、鹿児島大学の登録商標です。

このほど、三井ホーム(株)(東京都)のグループ会社である三井ホーム鹿児島(株)と共同研究開発した、鹿児島モデルハウス「LANGLEY(ラングレー)」が、グッド・ペインティング・カラー委員会(構成団体：日塗工、日塗商、日塗装)主催の「第23回グッド・ペインティング・カラー」内装部門において最優秀賞を受賞しました。

本建物にはかごんまの色®を用いたインテリア壁が採用されています。県産木材や伝統工芸品(大島紬・薩摩切子など)も採用し、鹿児島県の独自色が強く打出されています。

鹿児島の伝統・文化から生まれたかごんまの色®を現代の住まいに取り入れることで、地方創生に寄与するとともに地域に根ざしたユニークな取り組みであることが評価されました。当研究会では、地域の皆様に愛されるように、かごんまの色®の一層の開発・改善に努めていきたいと考えています。(牧野暁世)

注)「かごんまの色」は牧野さんが中心になって開発されたシステムで、開発から活用の経緯について、本通信の73、127、130、138、155、170号でも紹介されています。

## 新刊紹介「ブルーに恋して・・・」

新刊紹介：講談社ムック「TRANSIT」50号「ブルーに恋して！美しき日本の青をめぐる旅」

発行：ユーフォリアファクトリー

発売：講談社・1,800円+税(192ページ)

3ヶ月に1冊のペースで発行されているトラベルカルチャーマガジンです。

2000年12月17日に発売された50号は、日本にとっての「青」を考える旅をテーマに、ケラマブルーとして名高い慶良間諸島や、藍染で有名な徳島など、日本全国の青い空、紺碧の海、蒼い木々などを美しい写真と共に紹介しています。浮世絵とジャパン・ブルー、東山魁夷と青の世界、青系の日本の伝統色を56色紹介したページの他、アオレンジャーをはじめとした歴代青キャラクターの分析や日本映画と青、ブルースと昭和歌謡などについても掘り下げています。

また「青色百景」と題して川や湖の多様な青をチャートで見せたり、地域ごとの青い焼き物や藍染、成巽閣などの青の建築意匠の紹介、漢字のアオの意味など盛りだくさんの内容になっています。「青のメカニズム」、「世界の青図鑑」、「信仰世界の青」を監修させていただきました。改めて身近な青を探してみたい一冊です。(橋本実千代)

## 源氏物語の色-21-「少女」

源氏物語では色を効果的に使っているところが非常に多い。

状況に応じて華やかな場面では華やかな色合い、落ち着いた心理描写を表したいときには無彩色など、色の「情緒的效果」を用いている。

しかし今回の「少女」に頻繁に出てくる「浅葱」という色は、色の「機能的効果」の側面が見られる。

光源氏は息子の夕霧を高い位にはつかせず、大学に入学させ六位に留めさせた。六位が身に着ける色は「浅葱」であり、決して身分の高くないことを表している。

「浅葱色」は最近では明るい水色と思われがちだが、葱の若芽を語源としていることから、もともとは緑であったことがわかる。千年前の源氏物語では「浅葱」は薄い緑の代名詞でもあったようだ。

夕霧は「浅葱」を身に着けていることが嫌でたまらない。

「くれないの涙に深き袖の色を あさみどりと言ひしをるべき」とも詠んでいる。

本当に「浅葱」が疎ましいと感じる様子がよくわかる。色に意味があるからこそそのストーリー展開である。

<https://note.com/genjicolor> (渋谷典子)